

第36回安全管理の最新動向講習会 プログラム

※都合により講義や時間割が一部変更になる場合がございます。
最新情報は[安全工学会ホームページ](#)で随時掲載いたします。

9月1日（火）大阪会場：情報・データ・安全・リスク

主査	中村 隆宏 氏（関西大学 社会安全学部）
テーマの主旨	私たちを取り巻く「情報」は多岐にわたり、専門的な分野に留まらずごくありふれた日常生活にも多大な影響を及ぼします。そして、「情報量」は著しく増大を続けており、その傾向が今後ますます強まっていくことは間違いありません。一方で、どれほど情報が豊富になろうとも、私たちが適切に処理できる量には限りがあります。正しい使い方がなされなければ、私たちの安全に寄与するどころか、むしろリスクを増大させてしまう懸念さえもあります。今回の大阪会場では、「情報・データ」の切り口から、安全とリスクの課題にアプローチします。
9:00～9:10	開会挨拶
9:10～10:30	「データサイエンス時代の企業・組織の安全」 福井 敬祐 氏（関西大学 社会安全学部） 近年、数理・データサイエンス・AIは、特定の専門家だけが扱う技術ではなく、幅広い分野で求められる基礎的な素養となりつつある。企業や組織の安全管理においても、蓄積されたデータを活用し、リスクの把握や将来予測、意思決定の支援に役立てることへの期待が高まっている。一方、データの質や代表性、分析結果に伴う不確実性、予測されたリスクと有効な対策との違いなど、慎重に検討すべき点も少なくない。本講演では、統計学・疫学・データサイエンスの観点から、安全に関するデータを「測る」「予測する」「予防につなげる」際の基本的な考え方を整理し、今後、企業・組織に求められるデータ活用の仕組みと人材・データリテラシーについて考える。
10:40～12:00	「リスクとしての犯罪：その特徴から安全管理を考える」 島田 貴仁 氏（滋賀大学データサイエンス学部） 犯罪は、発生確率や被害の重大性に大きなばらつきがあり、特定の時間、場所、被害対象などに偏在・集中する。また、安全対策の主体が個人・世帯、地域、公的機関など多岐にわたることも特徴である。本講演では、まず、これらリスクとしての犯罪の特徴を整理したうえで、GISを用いた犯罪の時空間的集中の検出、子供・女性に対する犯罪やストーカー事案への対応など、犯罪場面における安全管理について述べる。最後に、ナッジによる犯罪予防行動の促進など、犯罪予防・社会安全にかかわる研究者と実務家の協働の現状について紹介する。
12:00～13:00	休憩
13:00～14:20	「関西大学 高槻ミューズキャンパスツアー」 会場まで足を運んで下さる方々に向けて、今回は「キャンパスツアー」を企画しました。 関西大学高槻ミューズキャンパスは、「社会貢献型都市キャンパス」として施設内に防災機能を備え、災害時の緊急避難場所としてその役割を果たします。当キャンパスが備える様々な防災対策（停電対策・断水対策・防火対策等）について、ツアーでご紹介いたします。
14:30～15:50	「情報セキュリティ／サイバーセキュリティの現状と組織が直面するリスク」 河野 和宏 氏（関西大学 社会安全学部） コロナ禍を経て働き方やビジネス環境が大きく変化したことに加え、クラウドサービスや生成AIの普及・定着に伴い、企業・組織を取り巻く情報セキュリティ環境は大きく変化し、結果、組織はこれまで以上に多様かつ複雑な課題に直面することとなった。具体的には、サイバー攻撃の高度化・巧妙化に加え、サプライチェーンや委託先を起点としたリスク、内部不正や人的要因によるインシデントなど、企業が向き合うべきリスクは多岐にわたる。本講演では、近年発生したインシデントや最新の脅威動向を紹介するとともに、組織に求められる情報セキュリティの考え方やリスクとの向き合い方、今後取り組むべき課題について幅広く解説する。
15:50～16:00	閉会挨拶